

第二節 道 路

日和佐町内の道路は、国道・県道・町道で、時代の要請に依って、今なお、改修や改良が行われつつある。道路は地域の交通・産業・教育等、地域住民の生活向上発展や住民福祉に大きく貢献をしている。次に道路の概要を紹介することにする。

一 国 道

(一) 土佐街道―国道―県道―一般国道五五号線

現在、日和佐町内の国道は、一般国道五五号線である。「起点・徳島市かちどき橋一丁目一番地。かちどき橋南詰」「終点・高知市本町、この延長二一・六詰。」

藩政時代における主要街道は、撫養・讃岐・伊予・土佐・淡路の五街道であった。このうち土佐街道が本町内を通っていた。これが海部郡の主要街道であった。

明治以降、国道としての取扱いをうけた。明治二十四年、海部郡会の議決により、阿南市字小野（当時の那賀郡福井村字小野）より星越を経て、日和佐に達する国道別線路を改修するよう県知事へ建議し、同二十八年より県事業として着工された。

また、日和佐より牟岐に至る間は、同三十二年より施行して同三十四年度に竣工した。

大正九年、道路法施行により県道に編入され、県道立江・日和佐線および日和佐・甲ノ浦線となり、道路法の改正により昭和二十八年五月十八日、再び国道に認定された。

国道五五号線に昇格されたのは昭和三十七年で、昭和四十年には従来の一級・二級の区別を廃し、一般国道となっ

た。幅員も拡張され、カーブや勾配を緩和する全路線の改良、トンネルの掘さくも行われ、また、路面のアスファルト舗装により、スピードアップされ交通運輸量もとみに増大した。

日和佐町内での工事は、昭和四十一年からはじめられ、同四十六年十二月二十日には舗装も完成した。この結果、従前の町内区間は北河内字大戸星越峠―街内―西河内―山河内字かんばの寒葉峠の間は延長二三・六詰（平均幅員四拵）であったものが、延長一八・九詰（平均幅員八・五拵の二車線）となり、四・七詰短縮された。

また、この区間には、トンネルが、星越（二三〇拵）、久望（二三七拵）、一ノ坂（二三四拵）、奥海（二〇〇拵）日和佐（六九〇拵・奥海と山河内の境）の六つある。

このうち、日和佐トンネルは、昭和五十七年一月一日現在で、猪ノ鼻トンネル（三好郡池田町）香川県三豊郡財田町間）に次いで二番目に長いものである。

完成以前、日和佐から西河内をまわって山河内を経由し牟岐町に至る所要時間は、乗合バスで一時間以上を要したが、今日では新国道により二〇分ほどで達するようになった。

近年は、道路利用の観光客が増大し、正月の薬王寺参詣者、夏の海水浴客・サーフィンに訪れる若者たちなどによるマイカー・観光バス等の通行が多く、しばしば渋滞するほどであり、交通事故の心配が生じている。

日和佐トンネル内には、基準より明るい電燈設備ができてはいるほか、非常用押釦通報器（一七か所）と非常電話（七か所）が昭和五十七年一月二十日完成した。事故や火災が発生の場合には、押釦を押すと建設省日和佐国道事務所に通報ができ、非常電話は一一〇番または一一九番に通じている。この設備は、県下では猪ノ鼻トンネルに次いで二番目の施設である。

また、山河内小学校裏には横断歩道橋が架けられ、児童の登下校時には安全通行をはかっている。

このように国道の整備は、日和佐町はもちろん、海部郡内の交通事情を大きく変えてきたのである。